

令和6年度教育研究活動報告書

氏名	西原 美彩	所属	芸術文化学部美術学科
学位	修士（芸術）	職位	講師
専門分野	イラストレーション・アニメーション		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	デザイン実習Ⅰ、デザイン実習Ⅱ、デザイン実習Ⅲ、総合基礎実習、構成実習 デッサン基礎演習、構成実習、デザイン論、古美術研究、卒業制作
大学院	デザイン研究Ⅰ、デザイン研究Ⅱ、修了制作及び関連する講義・演習
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）アニメーション：線と、テクスチャを含む色面の動きの発展	
（2）阿刀神楽調査（広島市）	
（3）地域神楽の保存と進化の現在	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R6・R5・R4	
R6	〈作品上映〉「鬼、布と塩」 「INTO 8 in NARA」 ギャラリートーク 奈良県立博物館 〈アニメーション実験制作〉「五郎の王子」 〈研究ノート〉2024年度 尾道市立大学芸術文化学部紀要24号
R5	〈アニメーション実験制作〉「天岩戸」 〈作品上映〉「鬼、布と塩」 JAA 日本アニメーション協会主催「INTO8」 ギャラリートーク 国立新美術館 〈作品上映〉「鬼、布と塩」 カメラジャパン映画祭 〈作品上映〉「鬼、布と塩」 ニッポンコネクション
R4	〈団体入会〉 JAA 日本アニメーション協会 〈展覧会〉「幻想の神楽 西原美彩展 -鬼、布と塩-とその周辺」 個展 広島市立大学 芸術資料館5階展示室 〈上映・入賞〉「鬼、布と塩」 第9回新千歳国際アニメーションフェスティバル 北洋銀行賞 〈上映・入賞〉「鬼、布と塩」 第31回CGアニメコンテスト 入賞 〈上映・入賞〉「鬼、布と塩」 第24回DigiCon6 JAPAN 奨励賞 〈上映・入賞〉「鬼、布と塩」 第18回吉祥寺アニメーション映画祭 ジブリ美術館賞 〈入選〉「鬼、布と塩」 第77回毎日映画コンクール
R3以前の主な研究業績	
（1）〈上映〉「そぞろ」 ICAF2016	
（2）〈上映〉「二十億光年のくしゃみ」 ICAF2015	
（3）〈グループ展示・上映〉「二十億光年のくしゃみ」 スイッチ展2015	
（4）〈上映・入賞〉「男と青虫」 第二回新県美展（広島県立美術館）優秀賞	
（5）〈グループ展示・上映〉「男と青虫」 Switch2014	
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R4・R5・R6	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
JAA（日本アニメーション協会）において R4 入会 R5 協会員上映イベント「INTO8」国立新美術館 作品上映 R6 「INTO in NARA」奈良県立博物館 作品上映	

令和6年度教育研究活動報告書

氏名	西原 美彩	所属	芸術文化学部美術学科
学位	修士（芸術）	職位	講師
専門分野	イラストレーション・アニメーション		

IV 社会活動	
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）	
(1) ひろしまアニメーションシーズン 学生とともに鑑賞参加	
(2) Inter Collage Animation Festival 2024 (ICAF2024) 出品した卒業生と参加し、上映プログラム一部において壇上の司会を担当した	
(3) 第8回 尾道映画祭2025 出品した学生とともに参加	
(4) 東京アニメアワードフェスティバル2025(TAAF2025) 出品学生作品の鑑賞参加	
その他（尾道マンガ大賞審査/一次）	1 回
<p>（公開講座・後援会・出前授業に関するもの、その他特記事項があれば記入）</p> <p>尾道市立大学の学生出品作品（アニメーション）の上映機会がある際に、極力余力があれば上映会場に赴いた。上映開場では、自身が初年度であることから、尾道市立大学講師として各校の教員に挨拶し、授業の特徴などを共有、また学生の作品の感想をいただくことなどを積極的におこなった。特に広島市立大学は母校・昨年まで非常勤助教であったため、今年度は非常勤講師（1回）で広島市立大学が行う3年生の学外展示の映像分野の講評に参加した。教員として相互関係を保ち、各々の大学の特徴を活かすことを前提に、設備や学生との接し方、授業方法などを俯瞰して考えることができた。第8回 尾道映画祭2025では、尾道で開催されることから学生への声かけなど積極的に行い、開催期間では学生と帯同しながら上映作品を鑑賞し感想を言い合ったり、学生上映会（しまなみ交流館ホール）では、黒田先生と自身は尾道市立大学の特徴や今年の作品の概要の説明をし、学生自身は作品を壇上で話す機会があったり、亀田祥倫さんとの懇親会では学生が積極的に質問をする場面があったりなど、通常授業内ではできない体験をすることができた。学生のモチベーションの上昇が伺えた。また、「広島文化新人賞」受賞の縁で、ひろしま文化振興財団から以下の要望とヒアリングが数回行われた。①現在の自身活動内容の報告 ②今後行われるだろう活動を支えるために主に財団の活用方法、及びコミュニティの盛り上げ</p>	